

## 標準的評価項目・評価基準の見直しについて

技術開発マネジメントのみならず、成果を社会に上市していくための出口戦略(事業化、知財、国際標準化)に踏み込んだプロジェクトマネジメントが重要になっている。このため、標記評価基準を以下の通り見直し、22年度評価から適用する。

### 1. 見直し内容(詳細は別紙)

- ① NEDO が行う「研究開発成果の実用化、事業化に向けたマネジメントの妥当性」を評価する評価基準を追加。評価の視点として、成果の実用化、事業化につなげる戦略、知財マネジメントの方針が明確に示され、かつ妥当であるかを評価する。
- ② 「成果は市場やユーザーのニーズに合致しているか」を評価する基準を明記。

### 2. 見直し理由

- ① 研究成果を実用化、事業化につなげていくための NEDO 戦略の妥当性に対する評価の視点が現基準にない。成果を社会につぎつぎと上市していくためには この視点から NEDO 自身のマネジメントの妥当性を評価することが重要。
- ② 追跡調査結果からプロジェクト終了後の企業の実用化活動の中断理由を分析すると、「ユーザーニーズとの不一致」を理由で中断した企業が約1割ある。評価分科会ではユーザーニーズに合致しているかを実質議論しているが、今回評価基準に明記し、周辺情勢変化等によりユーザーニーズに合致しなくなったものは、中間評価段階で中断を含めたプロジェクトの見直しを可能とする。